

今月の谷口雅春先生のお言葉

「これはできる」を
「貫き通す」こと

「心を変えない」とはどんなこと

「心を変えない」とは、「心」に「ペン」「これはできる」と思ったことは、それを「貫き通す」まで、いついつまでも「これはできる」と心に描いた考えを捨てないことです。何でも心の中に「これはできる」と心に画を描くように思い浮べた考えが、やがて形になってこの世の中にあらわれてくるのですから、「これはできる」と一旦きめた考えを捨てなければ、それは必ずできるのです。

（『人生読本』 307頁）



「これはできる」と「運が悪い」ということ

「そんなこと位は初めから知っていた。だから私は『これをしよう』と思っただけでも心を変えずにやってきましたが、やっぱり運が悪いことに変わりはない」とお考えになる人もあります。けれども、そうおっしゃるあなたの考え方は、私の考え方とたいへん異なります。私は「これはできる」という考えをいつまでも捨てないで貫き通すことが「精神一到」だと申しました。ところがあなたは「これをしよう」という考えはいつまでも捨てず

に「運が悪い」と言われます。あなたの考えと私の考えとがどれだけ異うか、太い活字で書いたところを比べてください。

私は「これはできる」という考えを捨てるなど申しました。

あなたは「これをしよう……しかしできぬ、運が悪い」と言っているのです。

「運が悪い」とあなたがおっしゃるのは、「これはできぬ」という考えが混っているのです。私の言う「これはできぬ」という考えとはまるきり反対ではありませんか。

（『人生読本』 308～309頁）

試験にパスしない理由

「これはできる」という考えの中には、「できる」という考えのほかに何にも混ぜ物がありますが、「これをしよう」という考えの中には、「これをしよう、しかしできないかも知れない」という考えが混っているものな



のです。「これをしよう」と考えるだけの「精神一到」

では必ずしも成功しないのは当り前です。入学試験に行く人たちは皆「この試験にパスしよう」と思って行

くのです。しかし、皆が皆まで試験にパスしないのは、「パスしよう」という考えはあっても、「パスできる」と

本当に信じている人が少ないからです。「しよう」とか「成ろう」とかいう考えよりも、「できる」とか「成る」と

とかいう考えの方が力が強いのです。（『人生読本』 309頁）

「成ろう」と「成れる」との違い

誰でも偉い者に「成ろう」とは思うのですが、そのう

ちの極わずかな人だけしか偉くなれないのは「成ろう」と

と思う考えは捨てていくせに、「成れる」という考えを

何時の間にか捨ててしまいますからです。そしていつの間に

かそんな人は、

「成ろうと思うけれども成れぬ」と言うのです。そして、

そういう人はとうとう偉い者には成れぬのです。

これで「成ろう」と「成れる」との相異が判ったでありましょう。

（『人生読本』310頁）

成功の秘訣

皆さん成功の秘訣も、立身出世の秘訣もここにあるのです。「精神一到」とは、どこどこ迄も、ただ成れる——成れるで突き貫すことです。

「心」で「成れる」と信じたときには、心のフィルムではすでにそう成っているのです。心のフィルムに描かれたことは必ず活動写真（編註・映画のこと）に映し出されるように、この世の中に本当に出てくるのです。しかし、自分がこうあつて欲しいことがまだ本当に出て来ないうちに、「成れる」という考えを捨ててしまつて、「成れぬ」という考えにいつの間にか成つてしまつたら、その「成れぬ」という考えがこの世に出てくるのですから、運は悪くなるのは当然です。

（『人生読本』310～311頁）



「なれる」と思うものになれる

仕事の時でも試験の時でも、まず最初に心の中で「神様と一緒にさせていただきますから必ずよくできる」と五、六ぺん称えてから、本当に神様と一緒にいるつもりでおれば必ずよくできるのです。「できる」という言葉を常にとなえているようにすれば、常に「できる」という心になり、その心は必ず形にあらわれて、本当でできるようになります。

人間は、なりたいたいものになれるのではなく、なれると思ふものになれるのです。

人間は、しようと思ふものが必ずしもできるのではなく、できると思ふものが必ずできるのです。運がよくなり、偉くなり、達者になり、立身出世できるようになるには、精神の生かし方を知らねばなりません。

（『人生読本』317頁）